

第1回「エコシティたかつ」推進会議 摘録（案）

■日 時：2010年7月27日（火） 14:30～16:30

■場 所：高津区役所 5階第1会議室

■出席者：岸委員、田中委員、水谷委員、山田委員、伊中委員、川辺委員、横山委員、三島委員、山口委員、田中委員、若杉委員、橋本委員、小林委員、鈴木委員、栗山委員、広瀬委員（深堀担当係長が代理出席）、上杉委員

■配布資料：

資料1：「エコシティたかつ」推進会議 委員名簿

資料2：「エコシティたかつ」推進方針 2009年度概要版

資料3：2010年度「エコシティたかつ」推進会議の役割と事業への取組みについて（案）

資料4：「エコシティたかつ」推進事業 2010年度スケジュール（案）

資料5：「エコシティたかつ」推進事業 プロジェクト展開スケジュール（案）

参 考：「エコシティたかつ」推進会議設置要綱

■議事概要

1. 開 会

進行役 新井地域振興課課長より、開会を宣言。

2. 委嘱状交付

船橋高津区長より推進会議委員に委嘱状を手交。

3. 区長挨拶

船橋高津区長より挨拶。

今年の日本国内の酷暑、各所での集中的なゲリラ豪雨を間のあたりにし、市民も気候の変化を意識するようになってきた。高津区では「100年後のたかつをどうするか」という問題意識から「エコシティたかつ」の施策を進めており、2001年からは12の短期プロジェクトを実施している。先般7月1日には区役所の屋上に太陽光パネルを設置（畜電池と一体化）し、お披露目のセレモニーを開催した。足元からの取組み、身近なところからのローカルな取組みが地球を形成していく。エコシティたかつの取組みに期待している。

（区長挨拶後、新井課長より資料確認。）

4. 委員紹介 （資料1）

岸委員に委員長をお願いしたい旨、事務局より提案（満場挙手で選出の確認をした）。

その後、委員全員から自己紹介。

最後に、新井課長より副委員長の選出について、横山委員の推薦があり、満場拍手で承認。

5. 委員長挨拶

岸委員長より挨拶。

「エコシティたかつ」の基本的視点のひとつは、温暖化対策。温暖化ガスの放出量を減らすという緩和策には、省エネ、リサイクル、自然エネルギーへの転換などがあ

る。一方、あまり話題にならないのは、その裏にある「適応策」。ゲリラ豪雨や洪水による土砂被害などは、地球温暖化の結果とは認識されていないが、都市部ではヒートアイランド現象によるものではないかと言われている。これは地べたなのでこぼこで対応していくしかない。日本はこの適応策への対応が遅れているが、高津区では対応を始めている。これから必ず先端になっていくはず。

もうひとつの視点は生物多様性。自然との共存をどうするか。農業、エコツーリズムなど、どう活用していくか。いきものにぎわいをどうするか。しっかり考えていけないといけない。これも自治体レベルではまだ突出した領域である。

6. 2009年度の実施について (資料2)

2009年度の事業成果について、資料2を使って事務局から説明。

地図による地域環境資源の共有化の促進

- ・ 一昨年は立体地形図を作製。昨年は市民参加型ヒートアイランド調査、高津学「でこぼこワークショップ」を開催。

学校流域プロジェクト

- ・ 区内小学校でビオトープ整備を支援。先生方のためのビオトープマニュアルを作成。

区役所緑化等、エコシティホール化の推進

- ・ 区役所屋上・壁面の緑化、「エコシティホール」ツアーを開催。

緑のカーテン事業の展開

- ・ 緑のカーテン講習会を実施。区役所食堂で高津区産ゴーヤー料理提供。シンポジウム開催。

普及啓発イベント

- ・ エコエネライフ・コンクールを開催。

農のあるまちづくりの推進

- ・ 別事業として「たちばな農のあるまちづくり」推進事業を実施。

水と緑でつなぐ歴史街道花街道

- ・ 区役所の壁面緑化。今年はきらりデッキの植栽を予定。

雨水利用の促進

- ・ 区民モニターを募集し、雨水タンクを設置。
- ・ 町会事務所に設置し、植栽や夏場の打水に使った。量が20リットルと若干少ないため、使う頻度とのバランスがとれていない感じもする。今年は区の花「水仙」の球根を植えるので、その際に雨水を使っていきたい。(横山委員コメント)

再生可能エネルギーの利用促進

- ・ 区役所庁舎屋上に太陽光パネルを設置し、本年7月1日にセレモニーを実施。10kWの太陽光パネルと13kWhの蓄電池を系統連携しているシステムは国内初。

エコ企業調査プロジェクト

- ・ 区内企業のミットヨさんを見学。区民レポーター3名にご協力いただいた。

まちなか油田プロジェクトの推進に向けた調査・研究

- ・ 使用済みてんぷら油の回収を区役所で側面支援。使用済み油を石鹼にかえる試みが行われている。

- ・ 使用済みてんぷら油を2年間回収してきた。当初月200リットルの回収量は460リットルにまで増えた。回収ニーズ調査の結果「集めてよかった」という声が聞こえてきた。次なる展開を考える時期にきている。町会会館や集会所など、点から面へと回収の仕組みを変えていきたい。(伊中委員コメント)

推進フォーラム

- ・ 2月27日に「農のあるまちづくり」事業と合同フォーラムを開催。フォーラム概要は報告書を参照願いたい。交流タイムで鶏団子を配ったのは好評であった。(田中委員コメント)

7. 2010年度 推進事業の進め方について (資料3,4)

推進会議の役割と事業への取組みについて、資料3に沿って事務局より説明。

続いて短期プロジェクトスケジュールについて、資料4に沿って事務局より説明。

その後、意見交換の主な内容は以下のとおり。

- ・ 実現可能な試みを重ねてきた結果、現在実施しているプロジェクトが残っている。新しく就任した委員の方々にも2010年度プロジェクトに積極的に加わってほしい。(岸委員)
- ・ 9月27日に「たかつ学」として、橘処理センターと橘リサイクルコミュニティセンターの見学会を準備中。推進会議委員の方々にもぜひ参加してほしい。
- ・ 8月3日のヒートアイランド調査は「エコシティたかつ」の一環か？(若杉委員)
- ・ 資金的には別枠であるが、「エコシティたかつ」と連携してやっていくもの。首都大学東京の饗庭先生と打合せして、今年度は定点で2か所実施しようという話をしているところ。(事務局)
- ・ 現在「水と緑のプロジェクト」で区内の緑地がどのくらい広がっているか調べている。ヒートアイランド調査やでこぼこマップに活用してほしい。連携していく価値があると思う。(伊中委員)
- ・ 中期的なプロジェクトのなかで、市民の方々の調べた緑地のデータを活用する計画が考えられている。(岸委員)

8. 推進事業プロジェクト展開スケジュールについて (資料5)

事務局より資料5に沿って推進事業プロジェクトの展開案について説明。今年度までの12の短期プロジェクトを整理統合させ、「高津区全域での取組」「小流域単位での取組」「スポット単位での取組」の視点でまとめている。

その後、意見交換の主な内容は以下のとおり。

- ・ 地域企業の先進的などころが入ってきて、企業連携で企業ネットワークプロジェクトなどができるとおもしろいと思うが、実際に進めるのは難しい。川崎市全体の温暖化緩和策にのっていききたい。(岸委員)
- ・ CO2発生源のマイカー対策はやらないのか？(橋本委員)
- ・ 「エコシティたかつ」事業には概念的視点で見れば含まれていないものも沢山ある。看板だけ掲げても実際に実行する人がいないとプロジェクトはできないので、いま現場で進められるプロジェクトに着手している。(岸委員)

- ・ 全市的な交通施策のなかで温暖化対策への取り組みを行っているので、それを踏まえ高津区で何をやっていくのかという議論が必要となる。(事務局)
- ・ 高津区は中心から片側が丘陵地、反対側は平坦な土地となっており、川崎市全体の地形における分岐点としての地理的特徴がある。平坦地と丘陵地のヒートアイランドの状況を定点観測して、高津区から発進していけるとよいと思う。(若杉委員)
- ・ 水と緑の協議会でも緑地の調査を行っており、報告書をまとめているところ。ベースマップづくりに参加できるのか。(伊中委員)
- ・ パソコン上の地図をつくるのが今年度の目標。まずは行政のもっているデータを載せていく。そのうえで市民の方々がもっているデータとうまく調整していきたい。(事務局)
- ・ 手入れされていない緑地は竹林ばかりで保水力がないということは承知していたが、それを伐墾することまで検討しているのか？(山口委員)
- ・ 検討するための基礎データはまだない。(岸委員)
- ・ 工業団体連合会でエコ取組みは行われているのか？(横山委員)
- ・ 川崎市のエコ会議に参加してもらっている。まだ具体的な取組みに繋がっていない。
- ・ 今年は酷暑でゴーヤーの葉もしなってしまう、緑のカーテンの役目を負わない。いまパッションフルーツを育てている。園芸好きの人には浸透しているようだが、一般の人がなぜ緑を育てるのか、緑のカーテンの位置づけを考えないといけない時機にきていると思う。(川辺委員)

9. 会議のまとめ

最後に有識者委員より以下のコメントがあった。

- ・ エコシティたかつ事業は、自らコミットして動かしていくのが基本的な考え方。今年度の展開もそれを期待したい。(田中委員)
- ・ 推進会議も2期目に入ったので、中長期化に向けた戦略を考えていってはどうか。交通政策については、当初中長期的な検討課題に入っていたが、今日の資料では抜けている。難易度が高い事業ではあるが、検討課題として載せておいてもよいのではないかと。(田中委員)
- ・ 住まう人にとって安全でリスクを考えた住宅政策が必要と考えている。ベースマップづくりには、安全に住んでいくための情報といった視点も入れられるといい。(田中委員)
- ・ 中長期と短期のプロジェクトの繋がりが気になっている。実効性・実現性のあるもの、多様な関わりを引っ張っていけるものを早めに検討することで、安定して次に展開していけるのではないかと。(水谷委員)
- ・ エコ企業調査プロジェクトは、コンクールの協賛企業さんを回ってはどうか。(水谷委員)

10. 次回の会議日程など

次回会議は11月中旬以降、12月上旬あたりで調整する。今年は、エコエナライフ・コンクールで緑のカーテンコンテストも実施。推進会議での主催をお願いしたい。審査等へのご協力もお願いする。(事務局)

以上